

自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：32665
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008 ～ 2011
 課題番号：20360277
 研究課題名（和文）都市形成における地域継承空間システムと近代化空間システムの関係についての研究
 研究課題名（英文）Study on the Relation between the Traditional Spatial systems and their Succession in Regions and the Modern European Spatial systems in the Modern Cities and Towns
 研究代表者：宇杉 和夫（USUGI KAZUO）
 日本大学・理工学部・准教授
 研究者番号：80096776

研究分野：都市計画、建築計画

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：地域継承空間システム、日本の空間システム、近代化空間システム
 アジアの空間システム、近代都市計画、路地、植民地、都市形成

1. 研究計画の概要

- (1)近代の都市形成を「地域継承空間システム」と「近代化空間システム」の関係からその評価を試みる。
- (2)日本建築学会の「近代の空間システム・日本の空間システム(MS・JS)特別研究」の目的と成果を引き継ぎ、同「サステイナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト(SAD&CA)特別研究」を推進する。同「地域空間文脈。計画史研究」も関連研究である。
- (3)地域事例調査は日本内外の対象地域の調査の中から関係文脈を抽出し、全体的空間文脈を検討する。
- (4)地域固有の空間遺産と近代化空間システムの関係に着目して具体的社会システムの中の活用を検討する。

2. 研究の進捗状況

- (1) 基盤となる「MS・JS 特別研究」の成果を研究協力者と、建築学会計画系著者参加者協力を得てまとめた。
- (2)代表者宇杉は『場所の空間学 環境・景観・建築』をまとめて刊行した。
- (3)「MS・JS 特別研究」の一部を、都市住宅学会関東支部ワークショップ「都心居住と路地空間 原風景とビジョン」で議論し『まち路地再生のデザイン 路地に学ぶ生活空間の再生術』を出版した。
- (4)「SAD&CA 特別研究」においては、一昨年に「日本の SAD&CA 提起報告書」「私の考える日本の SAD&CA 地域固有の空間構成、まちづくりの仕組み・手法とその担い手像」他の3報告書を、本年は「日本の SAD&CA ～地域主権の計画枠組：制度と担い手」をまとめた。
- (4)新たな調査については建築学会大会等で報告している。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。(以下理由)
- (1)関連研究の推進は当初の予想以上の成果

を得ていると判断している。

(2)日本建築学会の総合論文誌第10号「場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア」のチーフエディターを宇杉が実施することが決定し、共同研究者、中島・木多の参加する編集委員会の協力をもとに12月の発刊に向けて準備が進んでいる。これは本特別研究そのものの展開である。建築学という枠組みの中での業績としても大きな評価が得られると考える。

(3)調査の整理としては、『まち路地再生のデザイン』の延長として、国内事例については江戸東京の路地の研究が進行している(出版準備中)。

(4)また中国・韓国・タイ・台湾を中心としたアジアについては進行中(中国の大学と共同)。

(5)欧米はスペインとイギリスとニューオーリンズを中心にその文脈形成に検討を深めている段階。(上記総合論文誌第10号に成果を含める予定)。

(6)「SAD&CA 特別研究」は最終報告書とりまとめの段階。現在、東日本大震災復興の問題を同研究・本研究の課題として取り組んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

(1)本科研費研究の最終年である。上記建築学会の特別研究報告を推進する。

(2)上記総合論文誌編集・執筆を推進する。本総合論文は本特別研究の成果である。

(3)具体的な各地域の事例調査は、内容を深める研究というよりは、関係性を構築する研究としてまとめることになる。

(4)実施アンケートをまとめ、「固有の地域まちづくり」に活用できるものとする。

(5)特別研究の成果との関係においても、「関係性」「文脈」構築が主な課題と内容になる。

(6)中国研究者と共同の報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 宇杉和夫、「個室とコモンスペース：相隣コモンスペースとの関係へ」、住まいと電化、vol.22、11-16、2010年、査読無
 - ② 宇杉和夫、「サスティナブルエリアデザイン(SAD)と担い手 コミュニティアーキテクト(CA)制度の推進について」、Re 建築/保全、NO.165、63-67、2010年、査読無
 - ③ 宇杉和夫、日本の普通のマチ空間システムの継承と再生：オモテとウラの空間と地形、都市計画 277、2009年3月、60-63
 - ④ 宇杉和夫、「山と海の空間軸とウラの空間自然景観の中の神社と景観形成」、ピオシティ、no.40、78-81、2008年、査読無
- [学会発表] (計8件)
- ① 宇杉和夫/千島孝弘、「月島の街区形成における路地と隙間の空間分布類型について」、日本建築学会、2010年9月11日、富山大学
 - ② 宇杉和夫/津野俊介、「プノンペン都市近代化におけるラウンドアバウトの特性についての研究」、日本建築学会、2010年9月11日、富山大学
 - ③ 宇杉和夫/大杉亮、「韓国晋州の郷校と地域景観認識について一陰陽・風水認識と関連して」、日本建築学会、2010年9月10日、富山大学
 - ④ 宇杉和夫/北野幸樹/猿渡俊、「コミュニティアーキテクトについての問題提示とタイプ分類に関する研究」、日本建築学会、2010年9月9日、富山大学
 - ⑤ 宇杉和夫/丸史明、「中国西安交通大学の集合住宅と空間システムの保存に関する研究」、日本建築学会、2010年9月9日、富山大学
 - ⑥ 猿渡俊/宇杉和夫、「江戸切絵図の道空間分析に関する研究」、日本建築学会、2009年9月、東北学院大学
 - ⑦ 宇杉和夫「アンコール(王城)地域の山(プノン)と水(湖・川)崇拜と水運・方位軸について 地域継承空間システム<山と海の空間軸>と場所性・都市空間構成に関する研究」日本建築学会、2009年9月、東北学院大学
 - ⑧ 宇杉和夫/千葉智彦、「東京都心における元武家屋敷地の区画細分化の形成過程について一港区三田四国町周辺をケーススタディとして」、日本大学理工学部学術講演会論文集、2008年11月29日、日本大学

[図書] (計2件)

- ① 宇杉和夫/青木仁/井関和朗/岡本哲志著、「まち路地再生のデザイン」、彰国社、

258P

- ② 2010年1月
 - ③ 宇杉和夫著、「場所の空間学ー環境・景観・建築ー」、古今書院、2008年7月、2??P
- [報告書] (計7件)
- ① 宇杉和夫 (責任編集)、地域継承空間・都市持続形成システム調査報告書ーSADとCA・埼玉県市町村アンケート、2010年9月
 - ② 宇杉和夫 (責任編集)、日本のサスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト～地域主権の計画枠組：制度と担い手、日本建築学会、2010年9月
 - ③ 宇杉和夫 (責任編集)、私と建築計画学史、2010年1月
 - ④ 宇杉和夫 (責任編集)、私の考える日本のサスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト 地域固有の空間形成、まちづくりの仕組み・手法とその担い手、日本建築学会特別研究委員会、2009年11月
 - ⑤ 宇杉和夫 (責任編集)、日本のサスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト提起報告書、日本建築学会特別研究委員会、2009年8月
 - ⑥ 宇杉和夫 (責任編集)、日本のサスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト、日本建築学会特別研究委員会、2009年7月
 - ⑦ 宇杉和夫 (責任編集)、近代の空間システム・日本の空間システム、日本建築学会、2008年10月

[その他] (計6件)

- ① 宇杉和夫、地域コミュニティ持続再生の担い手：コミュニティアーキテクト制度一固有の「地域建築形成」と「地域まちづくり」研究報告一日本大学学部連携シンポジウム資料、持続可能な環境とコミュニティの創造学、2011年2月
- ② 宇杉和夫、「環境・都市・建築 地域コミュニティ持続再生のデザイン・担い手・計画制度」、日本建築学会特別研究委員会サスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト、5-18、2010年
- ③ 宇杉和夫、サスティナブルエリアデザイン(SAD)と担い手コミュニティアーキテクト(CA)制度の推進について、同上、13、2009年11月
- ④ 宇杉和夫、「20世紀と日本近代の転換点：1960年代の課題の再確認」、日本建築学会 特別研究 41 近代の空間システム・日本の空間システム、33-34、2008年
- ⑤ 宇杉和夫、「近代へ継承されてきた日本とアジアの地域空間・景観システム」、同上、35-36、2008年
- ⑥ 宇杉和夫、「近代の空間システム・日本の

空間システムの4観点と枠組の評価について」、同上、251-252、2008年